

## 転換期の今、ここから始めます——全日本合唱連盟理事長に就任して

思いもよらず理事長という大役を担うことになりました。日本だけでなく世界が大きな曲がり角に立たされている現在にあって、はたして皆さまのために善き働きができるのか、正直なところ不安を感じています。しかしながら厳しい状況にある今だからこそ、私に与えられた任務を遂行するために心を定め、邁進してまいりたいと決心しております。どうぞ皆さまのご協力をよろしくお願いします。

うたうこと、合唱することが白い目で見られたコロナ禍の2年間、私たちはやはり大きな痛手を被りました。学校では授業での歌唱も校内演奏会も中止となりました。一般の合唱団は練習会場が使用禁止になり、コンクールも講習会もすべてフリーズ状態でした。児童・生徒たちは黙食の影響も大きく、うたうことはおろか声を出す意志すら希薄になったと言われています。もうコロナ前とはまったく違う世界が私たちの眼前にあると言わなくてはなりません。

そして今、連盟は創設以来の大きな転換期を迎えています。一つは国が提唱する「文化部活動の地域移行」が検討されていることです。これは合唱連盟のこれまでの活動の根幹を揺るがす大きな問題です。皆さんもぜひ注視していただきたいと思います。

ご承知の通り連盟ではコンクールの小学校部門を開設したばかりで、今年3回目を迎えます。学校における部活動は、年齢に即した音楽体験の向上に大きく寄与してきました。高等学校は無論、中学校部門でも年を重ねるごとに痛感していることで、それをぜひ小学校部門にも波及させたいと考えているのです。しかし地域移行によって部活動のあり方は根底から変わってしまいます。私たち合唱連盟は、文化庁が行なっている検討会議に「意見書」を提出し要望をお伝えしました。そして私たちの考えに賛同してくださった吹奏楽連盟の皆さんと、力を合わせてこの問題に取り組むことにいたしました。世論を味方に児童・生徒ファーストのために頑張ります。

もう一つの転換期の課題は大学における合唱活動の再構築です。コロナ禍でオンライン授業が続く友達顔もわからない、そのような状況の大学で「合唱するって何なの？」…そんな声が聞こえてきます。無理ありません。私たちは現在苦境にある大学合唱団を応援し、盛り上げていきたいと切実に願っています。大学生の皆さん、ぜひ、ともに声を出し、音を重ね、ハーモニーする喜びを知ってください。連盟もしっかりサポートします。

人とコミュニケーションを取るのには本当に大切なことです。2人以上でうたい、心が通った時は何ものにも代え難い喜びを得ることができます。そしてそれが50人、100人になるとまったく違う次元に私たちを誘ってくれるのです。合唱って本当に素晴らしいものです。一人でも多くの人と声を合わせてうたい、新しい合唱の輪を築きましょう。

長谷川冴子